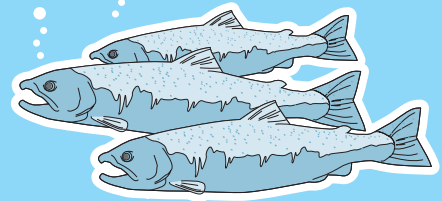


# ビワマス通信

vol.13



## 生物多様性の保全を進めるモデル事業

天野川に琵琶湖固有種のビワマスが遡上できる環境をつくってまちづくりを進めようと、市では県や関係機関とともに「天野川ビワマス遡上プロジェクト会議」を設置しています。

天野川ビワマス遡上プロジェクト会議事務局  
経済環境部 環境保全課(伊吹庁舎)  
☎58-2230 ☎58-1630

## 天野川魚道でビワマスが元気に遡上開始!

昨年3月にプロジェクトの一環として設置した天野川岩脇地先の魚道を、元気に遡上するビワマスの姿を確認しました。

写真を撮影した日(平成25年10月17日)は、4時間で約30匹のビワマ

すが、天野川岩脇地先の魚道を遡上しており、その後の事務局の調査では、目標地点の約1km下流に当たる河南樋口橋の下流までビワマスが遡上している姿を確認することができました。

プロジェクトでは、平成28年度までに丹生川との合流点までのビワマスの遡上復活を目指しており、今後、ビワマスの遡上の妨げとなっている堰堤に毎年1基ずつ、魚道を設置する予定です。



## ビワマスシンポジウムを開催しました!

3年目を迎えるプロジェクトの集大成として、11月23日に滋賀県立文化産業交流会館でビワマスシンポジウムを開催しました。当日は、プロジェクト会議会長の西田副市長のあいさつで始まり、米原市ビワマス応援大使のフアミリーレストランの司会のもと、(株)滋賀銀行などへのビワマスふ化実験用卵の贈呈式やビワマス大試食会、テレビでおなじみのさかなクンによるお魚教室などを行いました。

大試食会では、市内の料理店の方々が考案されたビワマスのゼリー寄せや、ちらし寿司、燻製、そばろ井、さつまあげなど工夫を凝らした料理が振舞われ、来場者のみなさんは琵琶湖の宝石と呼ばれるビワマスの美味しさを堪能しておられました。また、午後から行われたさかなクンのお魚教室では、得意のイラストとユニークな口調で、ビワマスのほか、タコやサメなど様々な生き物に



▲ビワマス冷蔵庫ふ化実験用卵贈呈式



▲ビワマスの美味しさ伝えマス!大試食会!



▲さかなクンのお魚教室



▲パネルディスカッション

ついてクイズ形式でさかなクンに楽しくお話しいただき、会場の子どもたちからは元気な答えが返ってきました。その後、さなかなクンや平尾市長らが参加したパネルディスカッションも行われ、これまでのプロジェクトの成果や、密漁対策などの課題について意見交換を行い、今後もプロジェクトを推進していくことを確認しました。また、今後はビワマスの食材としての価値にも注目し、ビワマスの知名度向上と、市の活性化にも繋げていければと、今後の可能性についても話し合われました。

# 息長小学校でビワマスふ化実験スタート！

息長小学校内には、天野川からの水路が引かれていて、川は子どもたちにとって身近な存在です。そんな息長小学校で、天野川ビワマス遡上プロジェクトの一環として、昨年度からビワマスふ化実験に取り組んでいます。

は、「かわいい」など大きな歓声があがっていました。授業の最後には、醒井養鱒場の養殖ビワマスの唐揚げを試食し、児童たちは地域の自然が育む食文化としてのビワマスの価値についても学びました。

実験に使っているふ化実験装置は、校内を流れる天野川からの水路の水をポンプでくみ上げ、小屋の中に設置した水槽に水を流す仕組みになっています。子どもたちは水槽のビワマスの卵を毎日観察し、実験開始からおよそ2週間後の12月9日にはふ化第1号が確認され、12月中旬にはほぼ全てのビワマスたちが順調にふ

化しました。(約1000匹)  
今回の実験によりふ化したビワマスは、4〜5cm程度になるまで小学校で飼育され、3月には天野川に放流される予定です。ビワマスは、2〜5年ほど琵琶湖で成長し、産卵のために再び生まれ育った川に戻ってくる習性を持っているので、天野川に戻ってくるのが楽しみです。

また、この飼育および観察を通じて、琵琶湖の固有種であるビワマスや身近な河川など地域の自然について、子どもたちの興味関心が高まることが期待されます。



▲琵琶湖博物館 桑原さんの特別授業 (5年生47人)



▲ビワマス倶楽部によるビワマス試食会



▲ビワマスを観察する子どもたち

## 『ビワマス音頭』が完成！

ビワマス倶楽部会員の粕淵宏昭<sup>かすぶちひろあき</sup>さんの作詞と、市内在住の北村哲雄<sup>きたむらてつお</sup>さんの作曲により、ビワマス音頭が完成しました。歌詞では、ビワマスの一生とプロジェクトの取り組みなどが紹介されており、粕淵さんは「これをきっかけに、少しでも多くの方に天野川のビワマスに関心を持っていただきたい」と話されていました。

ビワマスを主役とした市民主体の様々な取り組みが少しずつ動き出しています。



ビワマス倶楽部 粕淵さん